

フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

(230)

3月下旬、白馬村社会福祉ふれあいセンター会議室で開催された平成28年度A・コープ白馬店生産者直売会連絡会に参加する。生産者直売コーナーに野

菜等を出荷する白馬・小谷・美麻地区など197名を対象にした会議だ。

横山嘉政委員長から「コープの年間売り上げ見込みは3800万、1農家当たりの販売額は、生産意欲を刺激しない額だ。年間1億円の目標の意識を強く持ってほしい。顧客の多い冬季シーズンを意識して、サツマイモの『紅はるか』を栽培して焼き芋文化を定着しよう」と提案。品種

の特性は、「連作に強く、施肥・肥料は少なげ女性に好まれる鮮やかな赤皮、干しイモ用に適するなど地域に適した作物だ」と強調。30

日以上貯蔵すると、より甘く粘質のしっとりした肉質になるので貯蔵への対応が重要な指導に、JAと農家だけの取り組みでなく、行政や観光関係者との連携が、なぜこの地域

高齢による農業離れを、高齢化を生かした店舗づくりをする発想に大きく方向転換する必要性を強く感じる。

JA大北北部営農センター営農課の高橋恵三係長から、「土づくり営農指導で、土は養分・水分・空気のタンク。土の中に根を張り、そこから養分だけでなく、水や空気(酸

農業地場生産者の育成は地域全体の取り組みが必要

はできないのかと残念な気持ちが入り込んでくる。

単なる直売所の問題と考えるのではなく、魅力ある店舗が地域にある事で、地場農業も活性化する事例は、全国各地から聞いている。

の今溝和伴室長が、食品表示管理やトレサビリティ法に係わる適正

表示・品質管理などの法順守を、生産者直売場の存在意義として強く指導。安全・安心が最も大切だと参加者に強く意識つけた。また

素も取り込んでいて、土の構造が大切だ」と指導。良い土壌は、粒の粗さによる水はけ、通気性が良い事。また粒の細やかさによ

る水保ちが良い事。栽培野菜の好む土壌酸度の適正。養分の保持能

力の高さ。多種類の微生物が住みつく事による土壌病害に強い土づくりが大切と説明。しかし土壌

耕作者から土づくりを

会得した知識を、土壌診断する事により、野菜栽培に生かして行かなくてはと強く意識した講習でもあった。

(NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上)



横山委員長の熱き地域農業への想いが参加者の生産意欲を高める